

## 令和6年度 第1回長崎市文化振興審議会 議事録

日 時：令和6年4月30日（火）10：00～12：00

会 場：市役所9階 中会議室

次 第：1 市民文化活動振興プランについて

## 【事務局】 市民文化活動振興プランについて説明

### 【会長】

今説明いただいたところで、市の他の計画はこういうスタイルで書かれているというのは分かるような気がするが、文化についてはこれに収まらない範疇というのは当然ある。だから、これを参考にしつつということだと思う。そうしないと、この枠の中で文化をとらえられたら窮屈で何もできないような気もする。最初の平成9年の振興プランができた時、その時にすごく熱い思いを持ってたぶん30時間くらいかけて作った。それでやっと自主事業もできるかもしれない、これは機会だということだと思いっきりそういう願いを込めて、文化の樹を育てるということで平成9年に策定した。そして平成14年の改訂版の中ではいくつかの成果を協議した。それから、その後の改訂版というのはそれを受けてということで、割と穏やかなものになっている。その中で我々の環境が大きく変わって、まず一つは、ブリックホールができた、公会堂が閉じた。国の中では文化振興基本法ができ、文化振興法ができ、劇場法もできて、大きくそういう流れがある。それを当然踏まえないとこのプランもできないし、その辺については、ホールを考える時にたぶん基本構想・基本計画の中でそこはしっかり振り返りを一度していたかと思う。そういう状況になる中で、我々の立ち位置もあった。その状況において、新しい文化施設をどう考えるのか議論はしていたかと思う。それも踏まえながら、ご意見いただきたい。

### 【委員】

ブリックホールは平成10年にできているが、その直前にできた市民文化活動振興プランは、決して古びてなく、今でもこの項目は改めて見直したいと思うような項目がたくさん入っているように思う。その後市長も次々と変わって、また新しい体制で、長崎市のいろんな動きもある中で、またこの平成9年3月策定の振興プランに戻って、なぜ我々の文化は必要だと考えるかということを変更して市民に、また我々も考え直す一つのプランにできればと感じた。原点に戻るといのはちょっと行き過ぎかもしれないが、非常に熱のこもった、素晴らしいものだと思う。古びたものはもちろん消していいが、まだ今に役立つものはもう一度掘り起こして、もう一度目の前に突きつけていただきたいと思う。

### 【会長】

確かに、あの精神、理念は、強いものがある。達成できたものもあれば、課題としてまだ残っているものも、例えば環境を整えるあたりが非常に残っていると思う。

### 【委員】

このプランができた当時のことがもう私も全然分からないが、実際に原点に戻って考えていくのも大事だと思う。この計画で実際に今まで文化施策をやってみて、結果どういう形になっているのかという部分が、ちょっとよく見えない部分がある。そこを踏まえて、また新たに課題を抽出するのも必要かと思う。新しい文化施設に関しても、最初の構想を考えるに当たって、前のプランをもとに、そしてその後のいろんな国の政策の変化なども踏まえていろいろ議論をした形で、今、構想を練って計画に入ろうというところだったわけで、やはり基本の部分の構想や考えというものはこちらで議論してきたものを踏まえた形でぜひ残していただきたいと考えている。

### 【委員】

平成 9 年にできたプランを見て、いかに長崎を文化の町としていこうという思いが随所に込められていると思った。その中で平成 14 年に改訂版ができ、平成 25 年にまた新たな第二次改訂版ができたわけだが、やはりその中でもっと芸術を溢れさせようという思いはあるが、その改訂版の中で少し具体的なものがちょっと不足しているような気がする。今公民館の講座をみると、世代が二極化している。子供の講座か、あるいは年配の 65 歳過ぎた方の講座か、中間層がまったくない。中間層はどうしても子育てであったり、働いていたり、介護をしていたり、そういったことでなかなか文化に触れる機会がない。そこをどうしていくかというのをもう少し具体的な施策として挙げていければいいと思う。

### 【委員】

平成 9 年の振興プランを見て、現状と課題のところは今もそのままだと思いつつながら、この五つの項目を見て、それよりもっと深刻化していると思う。少しでも変化があったのか成果があったのか、それともなかったのかというところがあると思った。

### 【会長】

変化については、文化振興協議会が文化振興審議会という形になった。それから、当時はなかった芸術アドバイザーに見玉さんと津村さんになっていただいた。自主文化事業も当初はイタリアオペラからスタートして、だんだん予算も厳しくて減ってはきたが、事業は続いている。それを継続するために、例えば地域創造とか、宝くじとか、そういう外の予算を活用している。それから、サポーター制度、助成金制度、ラウンジコンサートなど、いくつかはある。いまだに解決

できない問題は多々あるかと思うので、できればそんなことも指摘していただきながら、次のプランの中にはしっかり書き込んでいくと考えているが、そういう考え方でいいか。

#### 【事務局】

おっしゃるとおり平成9年のプランを見返した時にすごく熱がこもった内容になっていて、それからもちろんいろんな社会的な課題もあり、人口減少が進み、あるいは直近ではコロナもあったが、そういった事情も踏まえながら、未達成の部分は今後計画期間の中でどれだけチャレンジしていけるかはあると思う。過去振り返って不足している部分については、できる限りこのプランの中に入れていくと今考えているので、そちらを今後も議論していただければと思っている。

#### 【会長】

コロナもあって、新文化施設の問題があったということも理由だが、前回の改定から10年以上時間が空いてしまったのは事実だと思う。本来ならばプランはこの文化振興審議会が一番議論していかなければいけないが、新文化施設のことで頭が一杯で、コロナでなかなか集まれなかったこともあったので、議論ができてないことは私も反省している。

#### 【事務局】

昨年度末ぐらいから振興プランを見直したいという話をさせていただいたが、平成25年からもう大分時間が経っている。プランを改定する際に長崎市の文化をどういうふうに進めていこうかという考えに皆さん立っていただいて、我々も一緒に作っていきたいと思う。その中で三つのプランを見比べたときに、やはりどう見ても、平成9年のプランがすごく充実している。これをベースにというわけではないが、このときに議論した背景というのは会長にもご意見をいただきながら進めていきたいと思う。国の動向や芸術基本法なども変わり、さらには長崎市も第5次総合計画ということで新しい計画のステップに入っている。またその中でコロナとか、そういった大きな課題も乗り越えてきているので、それに向けて皆さんの議論をいただきたいと思う。もうちょっと大きい視点でこういうところが足りないとか、こういうところがこれから必要になってくるというようなご指摘ご意見をいただければ、進めやすいかと思っている。

#### 【委員】

私が参加する役割として、子どものことを伝えて考えていくということを見

点としていることだと思っていて、それでプランを見てみたときに、子どもが守られる存在というのはもちろんだとは思いつつも、同じ市民の 1 人として子どもが主体者として文化を享受し、活動していて欲しいと、そういう願いを持っている。この骨子を見ても、安全を守られる視点はもちろんだが、守られるだけじゃない、子どもが主体という視点はちゃんと言葉としても盛り込んでいただきたいと思っている。子どもたちが身近で音を出したりして、文化活動できるような、それも公共でそれを保障するような場がとても不足していると思っている。練習場もブリックホールにはあるが、3,000 円という金額でしか借りられない。だからもうひと桁安く借りられて、あまり遠慮せず活動できるような場も、子どもたちが生き生きと文化活動できる、それを応援しているというメッセージを、ちゃんと市として伝えていくことをプランの中にもうたって欲しい。

#### 【会長】

子どものことについて、それから練習場の圧倒的な不足は、そのとおりだと思う。

#### 【委員】

皆さんおっしゃるように、最初の平成 9 年に策定された時は、この当時の委員の熱やどんな議論が交わされたらというのが想像できるような内容になっている。そして第二次改訂、第三次改訂と進むにつれて平成 25 年の現在施行されているものについて言えば、マイルドというか、どうにでも受け取れるような書き方になってきたというのがある。今回、先ほど事務局からもこれを改定するというよりは、もう一度見直してというお考えということだった。この会議では何をそれぞれ発言していけばいいのかと思ったときにやはり現状の課題、もちろん成し遂げられたこと、成し遂げられつつもまた何か怪しい状況に陥っているもの、まだ全然改善が認められないものも、しっかりあぶり出して、それを実際に具体的に行動に移して、何をどういう文言で書き添えていくことによってそれが実現に一番導いていきやすいのかをおそらく考えなければならないのだというふうに私は今話を聞きながら受け取った。まずは現時点の問題を洗い出して、そこから引っ張り出してあげればきっといろんないい案が出てくると思う。もちろんそれだけではないので、いままでのプランを見ながら問題点などを感じる部分があった。例えばリーダーの育成はまだ何もできてないような、全然活かしきれてないものがあるような気もする。リーダー格として動いている人間の年齢層も大分高齢化しつつある。例えば私はきっと現代のスピードの早い変化についていけない部分もあったり、もっと若者の柔軟な発想であったり、そういうことが活かしやすい何か文言であったり、逆にそういう方

ちをもっと取り込んでいく、例えばこういう会議の場でも我々の年齢層を見ても、もっと若い人がいてもいいのではといつも思いながら話をしている。我々の年齢で考える柔軟性には限界がきつとあり、今後活躍していつてもらわないといけない世代の人たちに、発言の場であったり、アイデアを出してもらおう場が必要ではないのかというのを問題点のひとつとして挙げさせていただければと思う。

### 【委員】

このプランをずっと見ているが、それぞれ専門が違う。それぞれのテーマがあって、それぞれの感じ方があるので、一概にこの大きなテーマで持ってこられても、なかなかお答えできない部分がある。この改善案に関してのもう少し細かい内容とそれを立場別に意見をいただくと、わかりやすいのではないかと思う。先ほどおっしゃられた長崎青少年センターやいろんなどころをお借りして使っていたが、現状でもほとんどない。スタジオを構えているところはいいが、これだけダンスが広まってくると、そういう団体だけでは済まされないところがある。今や幼稚園小学校から踊っている世界なので、そこを対応できるスペースの確保とか、前はよく海沿いでしていたが、今そういうことができなくなってしまっている。立場でそれぞれ違うので、内容をもう少し細かいところまでして、それぞれの立場での意見を出し合ってまとめていけばいいのではないかと感じた。

### 【会長】

いろんな視点が必要かと思う。

### 【委員】

プランが1年、どんなふうに進んでいたのか、どれくらい達成できたのか、どんな指標でというのは今すぐは難しいと思うが、文化振興審議会であるのか、傍聴だけじゃなくて、例えば何かアンケートを回収できる形にするとか、市民参加型みたいな形で評価するとかどんな方法でもいいと思うが、具体的にこれをどんな形で達成していくのかも目に見えるようにするのか、評価のことを明記してもいいと思う。明記がなかったら誰も何もなくても良い状況になってしまいがちと思った。委員も変わってくると思うので、そうなっても文化振興審議会として、プランを推進していくひとつの要素になっているというのがあった方がいいと思う。最初の時はあらゆる市民というふうに主体が結構明記されていたり、他の都市でもあらゆる市民とか全市民とかいろんな書き方があったと思うが、そこも第二次改訂版の方ではゆるくなっている。あらゆる市民なのか、子どもなのか、団塊の世代なのか多分問題によって主とする部分の書き方は変

わると思うが、誰がするのかをしっかりと明記していただくと誰が何のために動くというのがとても分かりやすく、プランの中に明言されるのではないかと思う。

### 【会長】

2点ほど、修正がある。この会議で検証したのは、振興プランについて検証していたのではなくて、毎年度実施された自主事業についてどうだったかということ報告を受けて検証していた。しいていえばアクションプランとの関連はあったが、振興プランについての検証というのはここ数年、あるいは25年の中でしたことはなかったのではないと思う。それから、その評価について言えば、担当課の中ではみなさん毎年度評価をされている。それが総合評価ということ都市経営室がしている全体の評価のところ挙がっている。文化関係についての報告があり、それについて、総合評価の部会で検証したことはある。プランについて毎年検証していたということではない。ただそれも事業についてはちょっとこしばらく検証できていないと思う。それからもうひとつ、主体という言葉が分からなかった。文化を享受するのは誰1人とりこぼさず全員の権利。ただ、長崎市としてちょっと子どもを重点的にしていこうと、今少子化の問題で長崎市に限らず日本全国そういうかたちになっている。主体はすべての市民。誰がこのプランを実行していくかは、これは長崎市。文化振興審議会でも、市民でもなく。長崎市はこれをしていくというのが精神だが、それであっているか。一つだけ整理しておきたいが、こういう文化を考える時に、一般的に必要なものが3つ言われている。一つは計画。それから、審議会。三つ目、条例。これが必ず言われる三点セット。それで計画、審議会この二つはできているが、この三つ目がどうなるかはこれからの課題だと思う。そういう意味で、この振興プランはとても大事なので、ここがもうちょっとしっかり書いていけばもう少し違ったという気がする。例えば伺いたいのが、プランはどの程度拘束力、影響力があるものなのか。ここに書かれているからしなければならぬというような意識は担当課あるいは市の皆さん、あるいは、市町村含めてどんな影響があるか。

### 【事務局】

今のプランの影響力というお話だが、最上位の計画である第5次総合計画もそうだが、計画は具体的な事業や取り組みを市の考え方として示しているものなので、当然、計画の内容に則って事業を行っていくというのは、これは長崎市に限らず、そういった考え方になるかと思う。その拘束力という部分で言うと、例えば法律で罰則があるものではないが、ただ市として、このようなことをこのような方向で進める、またこのような内容に取り組むということ明らかにし

たものなので、繰り返しになるが、それに則って、事業、施策を行っていくことになると思うし、その考え方でこれまでも行ってきた。

#### 【会長】

予算を組んでいく時の一つの指針にはなるだろうし、それから、今どういうふうに文化施策そのものが進んでいるかということの評価する時の基準になっていくかと思う。平成9年と平成14年の時には頭の所に市長のメッセージがあつて、平成25年、三つ目の時には市長のメッセージがない。1回目2回目の時には出来上がったものを冊子として市長に届けるセレモニーがあつたが、第3回目の時はどうだったのか。きっとこれが出来上がったときにはパブコメ、議会説明とあると思うが、審議会として市長にある程度、提言の要素もあると思う。それで一緒にしていこうという場面は予定しているのか。あつたほうがいいのかと思う。

#### 【事務局】

平成25年に策定したときにどうだったのかは答えられる情報を持ち得ていない。現状はどうか、課題がどうか、そういった中でこの計画でどういう内容になるのかにもよるかと思つたか、という形でも動かしていくのか、ということにもなるかと思う。そういったところが通じた結果になると思うので、現時点で提言するとかどういう形で最終できあがりに対応するということはまだ全く決まっているものではないので、今後進んでいく中で議論させていただければと思う。

#### 【会長】

他の市が作っているプランを見ると、だいたい市長のメッセージが最初にあつたりするので、おかしいことではないと思う。それから市長というのは我々が選んだ代表、言葉を換えれば文化芸術の代表でもあるので、一緒にしていくというのは、決して市長の方針に手かせ足かせではなく、応援していくニュアンス。そうでなくて、ある時この文書を議論した、パブコメ、議会ということで、知らぬ間に知らないものを作られても意味がないような気がする。ちゃんと私たちの生の言葉で伝える一つの機会として御検討いただけるようお願いしたい。

#### 【委員】

この比較一覧表は長崎市が作ったものだが、例えばこれは諫早市がこれと同じようなことを出しても、あるいは佐世保市が出しても全く同じような感じがする。具体的な政策の中に長崎らしい文化というのがまだ漠然としている。例え

ば個人的なイメージとして、例えば佐世保はジャズの町。それから、大村はクラシックの町。諫早は、六段の調発祥の地ということで、邦楽が盛んな町。長崎は何かということになったときに、なにかピンとこないというか、なんでもあり、あるいは交流あるいは歴史そういうところなのかという感じもする。例えばクラシックが初めて日本にもたらされたとか何かそういう特徴をもう少しはっきり出していったらいいのではないかという気もする。

#### 【会長】

確かに。長崎らしさについては、新文化施設の時に大分議論をして、芸術文化と平和を世界と共有するというのをひとつ打ち立てた。多分、長崎市の我々の気持ちはそこに込められている気がする。文化的資産や海外とのつながりのようなことも書いたが、新たな文化施設の構想、基本計画の中に今回のプランにも有用なフレーズはかなりあるのではないかと思う。その言葉を議論したのはこの場だから、文化施設がいつできるか分からなくても、あの精神というのは今も活きているので、過去のものにしないでください。

#### 【委員】

新文化施設もこの長崎市で作る文化の計画と密接不離な関係があって、無関係では決してないし、またそれがずれていては意味がないので、ぜひこの間の基本構想はこの計画とお互いにきちっとマッチするような形で作っていただきたい。長崎といえば平和ということが必ず切っても切り離せないものだし、今度の国民文化祭もピース文化祭とわざわざピースを入れたのはそこにも意味がある。やはり平和でないと文化を享受することができないというのはまさに切っても切り離せないものだというがあるので、ぜひこの平和ということは強調していかないといけないと思う。本当はピース文化祭もこの計画を作る段階に盛り込んで、文化祭を大いに生かすような形で計画も作れば本当はよかった。ちょっとそれはもう間に合わないが、まだあと1年あるので、ぜひそこも意識した形で相互に計画にも盛り込むし、その計画を踏まえて今度のピース文化祭も大いに盛り上げていただきたい。

#### 【委員】

演劇協会の話をさせていただければ、一番今課題なのは若手の人。演劇をしようという人がなかなか増えない。ブリックホールができたときに市民参加舞台を5年くらい続けてずっとやったが、その時は終わる度に演劇をしたいという人が結構来る。その時すごく潤って、長崎にロケがきたり、そういう時にもいろんな役者を提供するという循環は結構できていたが、そういうものは今まるっ

きりない。逆に今スポーツの方が盛り上がって、文化はやはりアナログで、もうデジタルに勝てないところもある。でもやはり若者に向ける方向を少しプランに盛り込めたらいいと思って、毎年文化振興課の方はいろいろやっているけれども、やはり毎年同じことをしているというイメージはある。だから、もっと違う方向に持って行って来年はこうしたらいいという議論は必要なのではないか。プランも大切だが、でもやはりそれを基づいて発信していくという項目があるのではないかという気がする。

### 【会長】

どうやって伝えていくかというのは、プランの中でも連携をどうしていくか、ネットワークをどう作るか、どう発信するかも書いてはいるが、できている部分とできていない部分はあるような気がする。それから、演劇について言えば、ブリックホールの周年事業として5年ごとに大きなものを実施して、その間にもリーディング公演や小さい公演、ステージを客席にしたりなどいろんな公演を実施して、ずっと私も見てきたが、長崎市の市民の演劇はレベルが高い。練習もすごいが、あれだったらリピーターも来る。他都市と断然差をつけている。レベルが高かった。予算も、ホールもなくて1週間、2週間連続で取れないと大変なこともあるようだが、あれはぜひ続けていけばいいと思う。演劇は長崎の財産だと思っている。

### 【委員】

今、何が我々にとって問題かということは、少子化対策だと思う。それと人口減対策、これで皆さんが実際に芸術文化活動をしている方々の後継者の問題とか、そういったことにも関わってくると思う。この文化の振興プランといえども、少子化対策から外れることはできないと思う。今の長崎市の問題として、少子化対策としての振興プラン、少子化対策としての文化活動を新しいプランに盛り込んでいただけないかと思う。少子化対策も子どもに対する教育のお金をもっと安くするなど具体的な施策は書かれているが、その中にゆとりある教育をもたらす環境作りもうたわわれている。文化は人間作り、親が子どもを安心してその都市で育てるためには文化活動は絶対必要。その視点をぜひ新しいプランでは入れて、少子化対策としての文化活動ということ、強く打ち出していただけばありがたい。

### 【委員】

先ほど、会長が言われたが、三つ必要な中で、一つ足りない条例のところ、

今日のプランの話だと思し、効力のところと、検証、先ほども言った毎年何か同じようなことをしているような感じと、少子化、人口減というのはそんなに先送りできることではないというのをあわせて思ったときに、プランに盛り込みたいが、それが実際どう実行されているのかというところをしていかないと、弱いと思う。その効力は何をもってしていくかという条例が九州で無いのは長崎だけともお聞きしてどうしたら作れるのかとの質問になるが、プランとかシステムというのはこういう公共でしていくときには絶対大切で、ぼやっとしても、絵に描いたもので終わってしまうし、子どもたちが育つ地域社会を作るところでは、ぼやっとしているもので済ませてはいけなとすごく思うので、やはり実行していくという私たちの意思も含めて何か形にしていく、それが実行されていく形も作るということを同時に考えないといけないと思う。それとスポーツが目立ちお金も投資されていいと思うが、商業的に人材を長崎で発掘するのはちょっと違うと思う。子どもたちが生き生きと日常の中でその子そのまま皆から喜ばれながら生活できるようにしていくには、生活の中で誰もができる文化を土壌として作りたいというのを付け加えたい。

#### 【会長】

まさしく第五次総合計画でもそのところがうたわれている。もう1点、逆のことを言えば、昨年一年間でまちづくりの皆さんと3回ほど会議をして、文化が、ぽつんと一軒家で文化ホールがあるのではないと、まちなかにあってこそ文化ホール、文化施設があることによってまちのにぎわいや楽しさ、人々の交流を作り出していくことに大きく寄与するというのを少し考えた。やはり次のプランにはまちのにぎわい、長崎を元気にするという観点も書き込まないといけない気がする。そういう観点がなくてどうしても文化が一部の人がしているという誤解を思い続けている方もいるので、そうではないということを書きたい。まちにこんなに影響があることはない、ハコモノだけではないということを書きたい。

#### 【委員】

もう一つの視点として、長崎の地域でいろいろな協議会というのが各地域にできて活動をそこに集約されていると思うが、そこでの文化活動、例えばコミュニティセンターを使った文化祭をされていると思うので、地域における文化振興という視点もぜひ盛り込んだほうがいいと思う。

#### 【会長】

それでは、資料の二つ目の議題でご意見いただける要素があると思う。

## 【事務局】 令和6年度事業と振興プランとの関連について事務局説明

### 【会長】

これは今年度取り組んでいる事業であるので、このような状況にあると現状を理解していただきたいということだと思う。この事業の検証については年度未なり機会があればすることになると思うが、長崎市の取り組みとして、例えばこのような項目で取り組んでいるという観点でみていただくのは意味があると思う。ただ、これは平成25年度のプランに則って事業を組み立てているということでもない。あの段階では第四次総合計画で考えていたので、今は第五次総合計画が走っているので、プランと照合することでもないと思う。芸術文化に親しむ機会の創出や市民のニーズに対応した文化施設の充実とあるが、どのくらい対応しているかは難しい面もあると思った。今後、長崎市のこれだけ財政難の時期に文化事業の予算はどんなふうに推移していくと予想されるか。

### 【事務局】

我々もそこは危惧しているが、少なくともこれが大きく増えていくということは、当然考えにくいというのは、予想ができる。その一方で、文化施設の整備であるとか、ブリックホールの大規模改修とか、そういったハード的な課題も抱えているので、ここに書いてあるのは基本的なソフトの部分になるが、そのソフトの部分に充てられる予算というのは、具体的に言うと、現状維持くらいと想定される。

### 【会長】

皆さん、そんな増えると思ってないだろう。ただ、新たな文化施設ができた時にはその文化施設がハブとなって、市内にある他の文化施設でしている事業などを全体を見ながら発信していく、調整していく、効率化を図るあるいはもうちょっと大きなものに取り組むという時に新たな文化施設にはそういう機能を持たせたいということを議論したと思う。市民会館がいつまで使えるかは別として、ブリックホール、チトセピアホールは我々の施設なので、ただお金を増やすだけではなく、その館を一体として文化事業を進めていくことをもうちょっと考える必要があると思う。そのときに、市だけの財政では厳しいので、もう少し大きな文化財団などから補助金を獲得できるような企画を打ち、長崎らしさを出していくことを考えないと市の予算だけでは厳しいかなと思う。

### 【事務局】

おっしゃる通り。当然、事業を充実、拡大していくには財源が必要なので、今のアイデアの他にも、文化庁のメニューも少しずつ出てきているし、文化庁の中でも、にぎわいを生み出す、交流を生み出すというところがコンセプトとして出ているので、それに対応したようなメニューがあれば積極的に活用していきたい。

### 【会長】

そう考えた時に、我々長崎市の弱点は劇場を持っていないということ。文化庁の予算は劇場についたりするものなので、そのあたりも新たな文化施設はどのようになるのか気になる。お金がない、事業を縮小しただけだと、回っていかない。ぜひ前向きな検討をお願いしたい。

### 【委員】

提案で、長年色々させていただいて、市民参加舞台で演劇、ダンス、音楽の3つコラボしたもので目標に向かっていくのはとても良いことだと思う。大きい一つの市民舞台以外にもいろんな行事ごとで、予算もあるだろうが、音楽とダンス、演劇とダンス、音楽と演劇や他にもたくさんの文化があると思うが、年間4回ぐらいでもプランを立ててコラボレーションすることはお互い文化の再確認もできて良いのではないかとずっと思っている。そういう機会を設けることができるかと思う。

### 【会長】

大事なところ。ブリックホール開館20周年の時、ピアノの生演奏でバレエを子どもたちに踊ってもらったのは子どもたちが楽しそうで良かった。そういうものが増えていけばいい。オペラと邦楽も一緒にした。ぜひ、越境する、垣根を超える取り組みはしていかなければならないと思う。それを企画するプロデューサーがない、自分の分野を超えてこれとこれをしようという人が必要なような気がした。

### 【委員】

国際文化協会が毎年文化のつどいをしていて、そこでは結構バレエと音楽、三曲と日本舞踊とコラボをしていて、ここ数年、非常に盛り上がってきている感じはある。そのあたりを連携はできないのかというような気はする。

### 【委員】

長崎らしい文化は何かとさつきからずっと思っていたが、今のお話、いろんなコラボレーションがあってもいいというのを聞きながら、長崎はちゃんぽん文化だと思った。ちゃんぽんは相乗効果で美味しくなるもの、それはピースにも繋がると思う。絶対敵対しないから。コンセプトとしてピースにも結び付くいいアイデアだと思う。ただそれをプロデュースする人間が不在というところが上手くまとめられない、歯がゆい部分。そこは何か私たちもアイデアを出し合っ、何かいい方法がないかを検討の余地があるのではないかと思う。もう一つは、例えばこれがこのまま振興プランというものであるがゆえに、予算を取っていきにくいというのがないのか。これがもし条例であったならせざるを得ないということで、長崎市として必ずこれはするべきと強く打ち出して予算を取ってきやすくなることはないのか。

### 【事務局】

条例の方が当然市民の責務、誰がするかをしっかりと明確に打ち出すという意味では、拘束力が大きいと思うが、それがあるので、予算が取れるかというのは、ちょっと難しい。

### 【委員】

明記され決まることによって行動には移さざるを得なくなりやすい。やはりプランというと、どうしても一応方向性はあるが、発言力が弱まったりしないかなが、疑念。他の都市で条例が必ずあるというのに、どのように機能しているかももう少し精査したときに、長崎市も条例を作っていかなければという話になっていかないのか、もしかしたら文化振興審議会でそのあたりも議論してぜひ条例をとということを私たちが主体となって提案していく場になってもいいのではないかと思う。

### 【会長】

全国の県レベルでないのが九州は長崎だけ。中核都市というふうに限定すると、条例を置いているところは二十いくつあったと思う。結局条例は書きぶり、予算のところまで踏み込んで書いてある。制約を掛けているところもあれば触れていないところもある。ただあまり書き込むと議会とか市長はうんと言わないだろうから、そこら辺がいい書きぶりが必要だと思う。どういう方向がいいのかはプランが先だと思うが、条例は検討してもいい議題と思う。

### 【委員】

造形芸術の人間がこのプランを見ると、一方的に上演芸術の方にかなり偏っているという印象は受ける。これはおそらくハード面での問題から、どうしても上演芸術系になるということというように理解はしている。プランの策定のところで芸術文化の範囲というのがおそらく書かれることになってきて、そのときに、初めに策定した平成9年から社会状況の変化や芸術文化基本法の制定などによって、芸術文化の範囲が非常に広がっているというこのあたりが盛り込まれてくるのが、平成9年とかなり変わってくるだろうというふうに考えている。

#### 【会長】

確かにあの頃とずいぶん変わって、文化振興の範囲が広がった。それだけ親しみやすくなっている気がするが、芸術に特化せずにもっと日常生活に広がるような楽しみ方が示されているので、それは当然今回のプランではしっかり書き込みが必要と思う。

#### 【委員】

基本的に劇場に来て、劇場で観たり、劇場で上演するのが一番、子どもたちや参加する人にとって大切なのではないかという気がする。アウトリーチで出かけて行ってそこで演奏するというのもいいとは思いますが、芸術は劇場に行き、本番前にベルが鳴り、緞帳が閉まり、真っ暗になり、ドキドキして、そこから始まるという一つのものについて教えることの方が必要と思う。演奏にしてもやはり劇場に出向いて、緞帳が上がると演奏が始まる一つの芸術として文化施設があり一体化をもっとしていくことが必要ではないか。自主事業の中身にそういうものがないので、アウトリーチにしても近くの劇場で皆集めて何か演奏して聴かせることも必要なのではないかという気がする。

#### 【会長】

プランの中でも市民のニーズにあって、質の高い専門的な劇場、施設が必要だと書いてはきたが、なかなかできない。多目的なものにどうしてもなっていて、長崎に不足している専用のもというのが、どの分野にも限らず言えるかもしれない。

#### 【委員】

自主文化事業で場は創出してもらっている。留学や関東に音楽を学びに行った人が戻ってきて演奏する時に場があると長崎はいいところだと思える。プロデュースできる人が育っていかないといけないときに、帰ってきてすぐプロデ

ユースできるわけではないが、しばらく経ってどのようにして場を作っていけばよいか、連絡を誰に取ればよいか、助成金はこんなふうに申請したら良いなど教えてくれるプロデュースする力を育ててくれる事業があったら、次の人材を育てるのにそういう場があったらいいと事業を見ていて思った。プランに人材を育てるとあると思うが、演奏するだけ、表現できるだけの人材を育ててもそれを混ぜて作ってくれる人がいないと生き残っていけないので、今の時代は演奏だけではだめ、プロデュースできなければというのがあるので、それを学べる場、関係を作れる場があったらいいと思った。あともう一つせつかく長崎らしさというところでピースやちゃんぼんもあるが文化財と上手にコラボしていくとか、発信が大きなキーワードにもなってくると思うので、長崎にすでに建っている建物も上手に使っていきながら、歴史と文化を上手に関わっていけるような事業があったらいいと思う。

#### 【委員】

理事長が常々、市の予算を使って教育を受けて、旅立った人たちが、長崎に戻ってきて、そこで人材を育成する、そういう貢献をきちっとするようなサイクルをぜひ作るべきというのは言っていた。そこでまた学ぶこともあるだろうし、いいサイクルになると思うので、ぜひ実現していただきたい。予算の件は審議会で話はあったのか、それとも文化振興課で考えて、令和7年度もする形になるのか。

#### 【事務局】

今のところその予算の中身までここで審議するという予定はない。

#### 【委員】

ピース文化祭の予算も盛り込めないのか。例えば自主事業も少し拡大するような形にすれば、国民文化祭事業として認められるようなものも活用できないかと思う。7年度に活用できるのか、プレ事業として6年度も活用できるのか、国民文化祭の予算の活用はどうか。

#### 【事務局】

国民文化祭の予算に関しては県から市に助成をいただけるのも7年度の事業、本番の事業だけとなっているので、今の提案があったように、令和7年度に通常している自主事業を拡大して、拡大部分に県から助成をいただくというようなものは今計画をしている。ただ一方で、令和6年度には県の助成がないので、今お手元にある資料には、拡充した部分が出てきていない。

**【委員】**

予算はつかないが、来年度に向けて拡大するみたいな形のPRというのは、してもいいと思う。

**【事務局】**

ピース文化祭のプレ事業は市の実行委員会の方で、また別途考えているということもあるし、本番の事業も文化振興課の事業はピース文化祭の連携事業としてはあるが、ピース文化祭の本体の事業としては、ピース文化祭推進室のメンバーで立ち上げていくので、予算も別途取ってあるというふうな形になるかと思う。

**【委員】**

当然連携するか。

**【事務局】**

もちろんである。

**【会長】**

プロデュース、若い人を育てていく、次につないでいく仕組みをどう作っていくかというのはひとつ今回のプランを考えるときに、必要かもしれない。それで、学びの場というのは、方法は二つ。こちらが大学の講座や文化庁のセミナーなどにこれから育ててほしい人を送り込むか、大学や文化庁などから順番にいろんな講師を呼んできて勉強会をするか。それを予算化してどうチームを組んでいくか。芸術アドバイザーも必要だが、若手で候補生というか、次の世代の人たちを決めて支援していくというのがよいような気がする。次のアーティストを育てるために奨学金を与えて勉強させるようなことも何か考えられそうな気がする。なので作っていければと思う。

**【委員】**

次世代のリーダーになる人、育ててほしい人の人選はどういう形がいいかもちょっと考えないといけない。自薦か他薦かそれぞれの業界で決めるのか公募するのも含め、システム全体もだが、方法論として細かく決めていかないと何も決まっていけない。

**【会長】**

例えば、どういう方法がいいか。

**【委員】**

自薦は多分なかなか出てこないと思う。だからやはり周りがプッシュしていく以外にないと思う。公募だとどんな人が来るかわからないという怖さがある。リーダーとして長崎の横の連携を取っていくには、事情が分かっている必要があると思う。連携も分かったうえでその手法を学んでしていける能力を持っていそうな人がいい。

**【委員】**

今度のピース文化祭で県の主催事業でダンス、舞踊、バレエ合同のイベントをするが、今度は若い人たちの視点を入れ企画してもらおうと、それと同時にその人たちを今後の文化を担う人材として育てていこうという趣旨もあって、それが一つ各業界のそれぞれリーダーの人たちに次世代のリーダー候補の人を紹介してもらおう、プラス公募もする、やはり意欲がある人というのは大事だと思うので、公募もしてというような形で今考えているところではある。そういう形がいいと思う。

**【委員】**

アートの部分でコラボも含めて高めていっていいものを作る人材と繋ぐとかコーディネートする人材は役割を分けてもいいというところはある。そういうコーディネーターは地元に通じてないといけないと思うが、芸術のところを高めていくというところではもっと広い視野で人選を考えた方がワクワクするという気がする。

**【委員】**

人材育成に関して、今やっとプロデュースは大事なことだとか、難しいことだと身に染みて感じるようになっていて、それはある意味、撒いていただいた種が育ったと私の中では思っている。それは即戦力、例えば3年後、4年後に即戦力になる人材を育てることも必要だし、中高生ぐらいからそういう感覚を持っていてもいいわけで、そういうもっとコアな感じで受ける講座があってもいいし、もっと広い、つなぐとか芸術性が高いとか各業界の人が出るような、もっと広い視野、裾野を広げた講座があってもいいと思う。結婚、妊娠、出産などで長崎を出ないといけないこともあるので、裾野はできるだけ広く、たまにはコアにしてもいいと思った。

**【会長】**

そう思う。平成9年のプランの文化の樹を育てる、人を育てるのは大事で、そのために種をまき、水をあげ、日を浴びさせることは必要だと思った。しっかり考えたい。

**【委員】**

人材育成の拠点として新しい芸術劇場、ハブ拠点として大事だと思う。

**【委員】**

文化施設の話し合いのときに、臨時委員で専門の方をお呼びしたと思うが、施設の事以外でもプロデュース的なことがよく分かる専門的な方がここにも必要だと思う。あとツールの部分でホームページ作成とあるが、どんどん技術が進歩してITの活用も少し視点を変えて考えていかないといけないという部分もある。メタバースやSNSも若者は使っているので盛り込んであるかと思った。

**【会長】**

今日はこれで閉じたいと思うが、今年度1回目なので、事務局から一言ずつ今年の抱負を語っていただいて、ぜひ意気込みをお願いしたい。

**【事務局】**

私が文化振興課に来た時が新たな文化施設の基本計画のちょうど策定の開始時期で、その後委員は少し変わられたりはしたが、本当に皆さんのお力添えがあってここまで来たと思っている。また今年度も皆さんのご意見、お力いただきたいと思う。

**【事務局】**

4月に異動してきて初めての審議会で、皆さんの熱に正直非常にびっくりして、私も当然ながらそういう熱を汲み取って、プランをどうしていくかとかあるいは事業をどうしていくかを、今後考えていかないと改めて思った。今後とも忌憚のないご意見、審議会以外でもいただければと思っている。

**【事務局】**

今日骨子を作るにあたって皆さんからいろんなアイデアいただいて、特にプロデューサー、コラボレーション、コラボレーションはちゃんぽん文化ということで腹落ちしたが、すごくヒントになる言葉、キーワードがたくさんいただ

けた。これはしっかりただのプランにならないように、実効性のあるようなものにしていきたいというふうに考えている。

**【事務局】**

本日は大きな方向性も、具体的な事業レベルでも様々な観点からのご意見をちょうだいできた。やはり計画は、計画を作って終わりということでは決してないわけで、計画に基づいてどういった事業をして、それでどういう成果が出てきたのかを検証しながら、どう事業を組み替えていくのかとかそういった動きが必要なのだろうと考えている。そういった点を念頭に置いて、また次回本日いただいた貴重なご意見を生かしながら、具体的な議論ができるような形で進めていければと思うので、今後とも忌憚のないご意見を頂戴できればと思う。

以上